

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	870101367		
法人名	有限会社ハイブリッジ		
事業所名	グループホームハイブリッジ		
所在地	水戸市米沢町98-1 (電話) 029-304-0190		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 15.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての ~ 1,2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	650 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	3	要介護2	7		
要介護3	8	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81.8 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤沢整形外科クリニック、みと南が丘病院、ハーモニーデンタルクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者はホームの運営に熱意をもってあたっている。
職員は管理者の運営理念をよく理解し、チームワークで利用者本位のケアを実践している。
特に、医療連携体制がよく機能しており、看護師から介護職員にケアにあたる際の留意点を伝達するなかで、いつでも看護師に連絡がとれるよう24時間体制で利用者を支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価において指摘された玄関の雰囲気づくりについて、季節の花を飾るなど改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は外部評価の意義を理解し、積極的に改善に取り組んでいるが、全職員自らが自己評価に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、会議で提案があった自治会主催の空き缶拾いに参加するなど、地域との交流に活かしている。 ホームに飾る「鯉のぼり」の提供先や公共施設使用の問い合わせのほか、ホームの行事への案内など市の担当者に積極的に働きかけている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に「苦情受付BOX」を設置するとともに、重要事項説明書等で意見・苦情・相談を受付ける外部機関を伝えている。 利用者や家族からの意見・不満・苦情を「職員連絡ノート」に記録し、全職員へ周知を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の空き缶拾いや地域まつりに参加するなかで、地域の人々にホームの理解を深めてもらっている。 地域の小学校の運動会に参加するとともに、プルタブ回収で得たお金で購入した車いすを寄贈してもらうなど活発に交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について職員間で話し合い、「家庭的な環境と地域住民との交流のもと、その人らしく安心して生活が送れるよう共に歩いていく」との地域密着サービス事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、常に理念を念頭におき、介護計画作成やケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の空き缶拾いや地域まつりに参加するなかで、地域の人々にホームの理解を深めてもらっている。 地域の小学校の運動会に参加するとともに、プルタブ回収で得たお金で購入した車いすを寄贈してもらうなど活発に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価の意義を理解し、積極的に改善に取り組んでいるが、職員自らが自己評価に参加するまでには至っていない。 前回の外部評価で指摘された玄関の雰囲気づくりについて、季節の花を飾るなど改善している。	○	自己評価に全職員で取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、会議で提案があった自治会主催の空き缶拾いに参加するなど、会議での意見を地域との交流に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームに飾る「鯉のぼり」の提供先や公共施設使用の問い合わせのほか、ホームの行事への案内など市の担当者に積極的に働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム日より「ハイブリッジ通信」で利用者全体の状況を伝えるとともに、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態を面会時に家族に伝えている。 面会に来られない利用者の家族に対しては、手紙により伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「苦情受付BOX」を設置するとともに、重要事項説明書等で意見・苦情・相談を受付ける外部機関を伝えている。 利用者や家族からの意見・不満・苦情を「職員連絡ノート」に記録し、全職員へ周知を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者への影響を配慮し、新規事業所立ち上げなどの際は、2人以内の異動に抑えるよう努めている。 離職を最小限に抑えるよう職場のコミュニケーションづくりに努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任・中堅・管理指導者など階層別研修プログラムと年間研修計画にもとづき、着実な研修を実施している。 職員が「自分がどの階層にいて、どのような研修が必要なのか」ということを十分理解するまでには至っていない。	○	階層別研修における位置づけを職員に伝え、研修への積極的な参加を促すことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の管理者に運営推進会議のメンバーになってもらい、同業者の視点からサービスの質の向上に対する意見を求めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学などで事前にホームの雰囲気を知ってもらうとともに、急なサービス利用の場合には利用開始後にホームの行事等に参加しやすい場の雰囲気づくりを行うなど、利用者の気持ちにそったケアに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひなまつりなど昔からの行事の際に、飾る時期などについて利用者から教わっている。 また、農作業経験のある利用者から畑の収穫方法について教わるなど支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態に合わせたアセスメントシートを使用し、一人ひとりの思いや意向について職員間で話しあって共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を面会時や手紙で求めるとともに、「サービス担当者会議」でアセスメントをもとに、医師も含めた関係者の意見を聞き、介護方針を決め介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の全体方針は年1回、具体的な方針は3ヶ月に1回モニタリングし、介護計画を見直している。 急な状態変化があった場合は、随時介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が利用者の健康状態を的確に判断し、大事に至る前に入院させるなど、医療連携体制を活用している。 薬の使用は薬局との連携により、的確な管理指導を受けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間診療を受付けてくれるなどの理由で、基本的にはホームが連携する医療機関を受診するよう勧めているが、利用者や家族が希望する場合はかかりつけ医への通院も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用開始時に、「医療連携体制加算」と「重度化した場合の看取りの指針」について説明している。 「ターミナルケアについてのマニュアル」を作成し、終末期のケアについて家族と話し合い合意した方針にそったケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際に小声で話しかけるなど、プライバシーに配慮したケアを行っている。 ケアに関する個人情報は、外から見えないスチール製ロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間、就寝時間等は利用者一人ひとりのペースや希望に合わせた配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が配膳や下膳をするとともに、ゆったりとした雰囲気ですべてを楽しんでいる。 おかゆを出すなど、利用者の好みやペースに合わせて2時間程度の幅をもたせて食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後に入浴時間帯を設定しているが、時間等は柔軟に対応し、希望にそって入浴ができるよう支援している。 入浴の順番は、利用者の不満がでないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業に携わってきた利用者には畑作業をリードしてもらったり、会社で管理職だった利用者には行事のまとめをしてもらうなど、生活歴を活かした役割ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩のほか、週2回スーパーやホームセンターへ買い物に行くなど外出支援している。 利用者が通いなれた理髪店への外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面する玄関にチャイムを設けるなど、利用者の安全に配慮しつつ、職員の支援により自由に外出できるよう工夫している。 「身体拘束検討委員会」を設け、玄関などに鍵をかけることの弊害について話し合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成するとともに、職員に「防災の手引き」を配布し、防災について自己点検することにより万全を期している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある利用者が多いため、食事バランスなど栄養管理は外部に委託している。一人ひとりの食事量や水分摂取量を把握して栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾るとともに、木製の腰板など全体に清潔感を感じさせる共用空間づくりをしている。 共用空間に利用者の書道作品を飾るなど、親しみやすい雰囲気づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はタンスや籐製家具など、馴染みの家具を持ち込んだり自分の写真を飾るなど、思い思いの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。